

事前評価書

年度	28
整理番号	

事業名・路線名等	(単)道路改良事業 一般県道 臼杵津久見線 <small>かいぞえ</small> 海添工区	事業主体	大分県
所在地	臼杵市大字板知屋 <small>いたちや</small>		
事業概要	事業の目的	平成30年代前半の臼杵港フェリーバースの移転を踏まえ、道路改良工事を行うにより、車両や歩行者の交通安全確保を図る。	
	事業内容	【計画延長・幅員】 L=560m、W=6.0(9.5)m 【道路区分】 第4種第2級 【設計速度】 V=40km/h 【現況幅員】 W=5.5(9.5)m 【交通量】 自動車 4,047台/日(H27実測)、4,953台/日(H42計画)	
	事業費	C=350百万円	
事業の実施計画	完成予定年	着手から4年(平成32年度)	
	事業段階毎の実施計画	1年目 詳細設計、用地測量、用地買収 2年目 用地買収、改良工事、舗装工事 3年目 改良工事、舗装工事 4年目 改良工事、舗装工事	
事業の必要性	必要性・緊急性	・現車道幅員が2.75mと狭いため、平成30年代前半の臼杵港フェリーバース移転による大型車交通量の増大による交通事故の増加が懸念されるため、早急に整備する必要がある。 (※) 大型車交通量の増加・・・H27センサスを元に106台/日→1,012台/日と算出される。	
	整備効果	・フェリーを利用する大型車の通過がスムーズになり、走行性・安全性が向上する。 ・沿線集落を結ぶ主要な生活道路で、臼津交通路線バスの運行ルートにもなっており、安全性の向上と走行性が確保される。 ・両側歩道(幅員1.0~1.5m)だが、歩行者は実質JR側の歩道のみを利用していることから、片側に集約して幅員2.5mの歩道を確保することにより、通行車両・歩行者双方の安全性が向上する。	
事業手法・工法の妥当性	費用対効果分析	・費用便益分析の結果、費用便益比は0.60となるが、「生活道路としてのアクセス強化」「歩道の集約による歩行者・通学者の安全性向上」「地形改変を最小限にする幅員構成の変更」などの効果も踏まえると、本事業実施における事業効果は高いと考える。	
	工法の妥当性	・道路形状について、経済性等勘案しながら、道路構造等に適合した工法を採用。 (隣接する企業の状況を考慮し、現段階で適切な整備を実施。) ・今回は暫定形(片側歩道)で整備するが、将来的に完成形(両側歩道)で整備を行う際にも手戻りが生じない。 ・左側路肩(隣接企業側)は、暫定形整備のためW=0.5mとなるが、カラー舗装により歩行者の安全対策を行う。	
	コスト縮減	・既存道路を最大限活用し、線形について若干調整をおこない、極力家屋への影響がないようしている。 ・アスファルト・砕石は再生材を使用。	
	環境等への配慮	・平面線形、縦断線形ともに現道を最大限に利用する計画としている。	
事業実施環境	事業の実効性	・臼杵市から土木建築委員会へ要望が挙がっており、市の協力体制は整っている。	
	事業の特殊性	・都市計画決定を踏まえて全幅12.0m(両側歩道)での現道拡幅工事を行うべきだが、隣接企業の工場内設備の更新時期と合わないこと、臼杵港フェリーバースの移転と歩調を合わせる必要があるなど、緊急性を要することを考慮し、今回は全幅9.5m(片側歩道)の暫定施工にて整備を行う。	
対応方針	・以上のとおり事業の必要性が認められることから、本事業を実施したい。		

事業箇所位置図

